

科目名	キャリア開発論		
授業形態	講義	学年	1
開講時期	2022年度 後期	単位数	2
担当教員	平澤 賢一、会田 和子、佐藤 明、田辺 賢行、二瓶 幸恵、松田 拓		
内容および計画	<p>【本講義の目的】 本講義（Since 2007）の目的は、『仕事』とは自分にとってどのような意味を持っているのか」を考えることである。 但し、就職活動に関する「How to?」ベースの知識やスキルを身に付けることは、本講義では目指していない。就職活動においても「正解」をすぐに求める風潮があるが、本講義を、正解の無い課題について深く考える機会としていただきたい。 なお、就活そのものに関することは、本学「キャリア支援センター」で相談していただきたい。</p> <p>【本講義の概要】 2011年度より、大学等におけるキャリア教育が義務化となった。本講義は2007年度に開設したが、「なぜ働くのか」「自分にとって働く意味とは何か」というように、「Why?」と「What?」を考えることに重きを置いている。そこから、これからの長い人生において、「働く」とはどのような意味を持つのかについて深く考えていただきたい。 本講義では、実務の第一線（民間・公務）で採用・人材育成・キャリア開発に携わって来られた方々に講師をお願いする。毎回の講義では、「仕事」や「働くこと」についての講義を受け、その後、質疑応答やディスカッションを通じて各自の考えを深める。ゲストスピーカーをお招きすることもある。企業等がどのような視点から採用活動をし、人材育成・キャリア開発を実施しているかを学ぶことが出来る。進路活動「前」の目的意識を高めるとともに、卒業後のキャリア形成について考える講義である。キャリア論分野の理論についても講義の中で説明する。 なお、各講師にお話しいただく項目は、以下の3つに大別される。 （1）就職活動中の学生に求められること： 新卒採用にあたって、企業側はどのようなことを学生に望んでいるのか。就職対策本に書かれていることをこなす前に、考えるべきこと、なすべきことは何であろうか。 （2）「正社員」として働く意味とは何か： 学生時代に経験したアルバイトとは異なり、正社員として企業に採用されるとはどういうことを意味するのか。企業は、どのような意識で働いてもらいたいと思っているのか。就職するに当たって組織の一員として「働く」ことになる意味を考える。 （3）組織でどのようにキャリアを開発すべきか： 短大卒は就職後3年以内に4割が転職をするという。一生に一つの組織でキャリアを全うする場合もあれば、転職を繰り返す場合もあろう。定年は65歳。女性にとっては人生85-90年の生涯学習の時代にあって、個人のライフキャリアをどうデザインすべきであろうか。また、組織において個人の成長を図るにはどのような視点が必要なのだろうか。</p> <p>【計画】 詳しい「講義日程」は、後期講義開始時に配布する。</p> <p>【注】 *所属学科・コースにかかわらず、就職を考えている学生による履修を歓迎する *産学情報学科の専門科目に位置づけられるが、「他学科学生」の履修を歓迎する *特定分野の専門家に話を聴きたい場合は、各学科・コースのそれぞれの講義でお願いしたい *専攻分野の専門家のみのお話にはしか関心を示さないのではなく、一見、他分野と思われる方々から直接お話を伺う機会の意義を考えていただきたい *それぞれの専門分野は互いに密接に絡み合っていることをこそ大学においては学ぶべきである。学問は多様化し、諸科学は関連しているのである *履修登録に関し、他者の意見に左右されるのではなく、自己の判断において決定されたい *就職に際して知っておくべき「労働法」の基本的な項目についても取り上げる予定 *就活に関するノウハウは、本学「キャリア支援センター」にて相談していただきたい</p>		
1	講義ガイダンス： ・『キャリア開発論』の意義 ・講義の概要 ・履修上の注意 ・「キャリア」と「キャリア論」の概説 なお、詳しい「講義日程（&講義内容）」は、後期講義開始時に配布する。		

2	<p>講義、受講生とのディスカッション (第2回～第15回の詳細は、後期講義開始時に配布する「講義日程 (&講義内容)」を参照のこと。) 以下は、ある年度の各回の講義テーマである：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知っておきたい社会保障と給与の仕組み ・ 様々なワークスタイル ・ 組織の中のリーダーシップ ・ 楽しく働く：元気にキャリアを重ねるために ・ 会社勤め vs. フリーランス ・ 知らないと損する労働法 ・ 多様性の受容 (Diversity&Inclusion) とワーク・ライフ・バランス ・ 人生って何 ・ 生きる知恵
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	総括：本講義全般の振り返りと、受講生とのディスカッション

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年

- ・ 教科書は、特に使用しないが、資料やハンドアウトを適宜配布する。
- ・ 各講師によるテーマの詳細は、後期講義開始時に配布。

参考書

参考書 適宜紹介する。

成績評価

評価方法	割合(%)
各講師の課す課題、出席状況、ディスカッションへの貢献度、最終レポートを総合的に評価する	100

- ・ 「最終レポート」の未提出者は、履修放棄とみなす
- ・ 各講師による評価と最終レポートの評価との総合評価とする
- ・ 出席日数、質疑応答での適切な返答、討議への積極的参加・貢献も評価する

学習到達目標

進路を決定する上で、「働く」ということに関して意識的に考えをめぐらせる機会を持ち、自分の見解を表明

	できるようになること。
先修条件	特になし。
実務経験	実務経験有り：非常勤講師各位と平澤は、民間・公務における管理職経験を含めた実務経験者である。講師には国家資格「2級キャリア・コンサルティング技能士」の有資格者も含む。講師各位の実務経験は、本講義全般に関わる。実務経験からの知見を交えて講義をする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は、必ず初回の講義（ガイダンス）に出席のこと。その場で、実務家による講義日程と正式テーマを配布する。また、評価についてもお話しする ・本講義では、就職活動の How to を講じるのではなく、「なぜ働くか」といった Why と What を考える機会を提供するという点を注意されたい